

ザワメキ

ザワメキアート？

障がいのある人が表現した作品に向き合ったとき
どこか心がザワザワとし
不思議な感覚を覚えるものがある
忘れていた 眠っていた 自分の感覚のどこかが
くすぐられたり 揺さぶられたり…
そんな作品を展示します

信州の障がいのある人の
表現とアール・ブリュット

入場
無料

◎ 長野県 / 長野県教育委員会 / 信州ザワメキアート展実行委員会

ホクト文化ホール
2016.12.8 ㊦ - 25 ㊦
〒380-0928 長野県長野市若里1-1-3
TEL 026-226-0008
開館時間 9:00-17:00 月曜日休館
12月8日は9:30開館 25日は15:00閉館

茅野市美術館
2017.1.5 ㊦ - 16 ㊦
〒391-0002 長野県茅野市塚原1-1-1
(茅野市民館内) TEL 0266-82-8222
開館時間 10:00-18:00 火曜日休館
1月5日は10:30開館 16日は15:00閉館

銀座NAGANO
2017.1.22 ㊦ - 23 ㊦
〒104-0061 東京都中央区銀座5丁目6-5
NOCOビル 2F TEL 03-6274-6015
22日 12:00-17:00 23日 10:30-15:00
部分展示を予定しています

信州ザワメキアート展実行委員会事務局
(長野県障がい福祉センター「サンアップル」内)
〒381-0008 長野県長野市下駒沢 586
TEL 026-295-3441 (受付 9:00 ~ 17:00)
※休館：月曜日・休日の翌日および第2火曜日
E-mail : info@zawameki-art.com
URL : http://zawameki-art.com



全会場
入場無料

ホクト文化ホール

2016.12.8日 - 25日

〒380-0928 長野県長野市若里1-1-3

TEL 026-226-0008

開館時間 9:00-17:00 月曜日休館

※12月8日は9:30開館 25日は15:00閉館

オープニングセレモニー

「音あそび・ギャラリートーク」

2016年12月8日(木) 9:30～

講演会 [展示室にて開催]

「今、若い人に伝えたいこと」

美術家 倉石久子氏

2016年12月17日(土) 14:30-15:30

ギャラリートーク

会期中 土曜日 14:00-14:30

茅野市美術館

2017.1.5日 - 16日

〒391-0002 長野県茅野市塚原1-1-1

(茅野市民館内) TEL 0266-82-8222

開館時間 10:00-18:00 火曜日休館

※1月5日のみ10:30開館 16日は15:00閉館

オープニングセレモニー

「音あそび・ギャラリートーク」

2017年1月5日(木) 10:30～

講演会 [展示室にて開催]

「みんなで語ろう

『ザワメキアートをめぐって』」

美術家 中津川浩章氏

2017年1月7日(土) 14:30-15:30

ギャラリートーク

会期中 土曜日14:00-14:30

銀座NAGANO

2017.1.22日 - 23日

〒104-0061 東京都中央区銀座5丁目6-5

NOCOビル 2F TEL 03-6274-6015

22日 12:00-17:00 23日 10:30-15:00

※部分展示を予定しています

ワークショップ [各回定員10名]

「UEDA獅子」お張り絵付け

1時間程度 1回1,500円

1月22日(日) ①15:00～

1月23日(月) ②11:00～

③13:00～



UEDA-SHISHI

審査員のザワメキ

01 中津川 浩章

美術家 アートディレクター 神奈川県

“生きるためのぎりぎりの行為、
表現、それともアート？
ココロがいっぱいザワメキます！”

02 小林 瑞恵

社会福祉法人愛成会 アートディレクター 東京都

“表現の宇宙を旅して、
未知なる創造に出会うような、
つきぬけるエネルギーに心揺さぶられる”

03 越 ちひろ

現代アーティスト 千曲市

“溢れる衝動という個の表現を、創作に変えた
作品のエネルギー、強さを感じる”

04 関 孝之

NPO法人ながのアートミーティング代表 上田市

“なぜそんな表現をするのか、そこに至るまでの
作者のモノガタリが聞こえてきそうだ”

障がいのある人の 表現とアール・ブリュット

アール・ブリュット(生(き)なま)の芸術とは1940年代にフランスの画家ジャン・デュビュッフェによって考案された美術の新しい考え方で、現在日本では「障がいの美術作品」のような意味で使われています。それは、デュビュッフェがそう名付けた作品の中に精神障がいのある人や幻視家、または正規の美術教育を受けていない人などが制作した絵画や彫刻、表現なども含まれていたからです。日本で作品が紹介された1990年代、まだ障がいのある人の作品は美術館などの企画展で紹介されることも少なかったため、そのインパクトはとても大きいものでした。現在、エイブル・アートに代表されるようなアートプロジェクトによって、人が生きるチカラやネットワークをつくっていく取り組みも全国に広がりました。単純に「アール・ブリュット＝障がいのある人の作品」ではくれない文化が日本には生まれつつあります。

今回の公募展では、日本のそうした「アール・ブリュット」がブームとなった背景の中で、一括りにされてしまいがちな「障がいのある人の表現」を改めて、長野県の障がいのある人の公募の中で見つめ直したいと考えます。地域の福祉施設やアトリエ、自宅などで生まれる表現が、障がいのある人の生きる力や、幸福に繋がっていることだけでなく、鑑賞する人を感化する、アートとしての底力を持っていることをご紹介できればと思います。

障がい者施設で上田市のお土産をめざしつくっている「UEDA獅子」。NHK大河ドラマ『真田丸』の上田城築城の際にも舞う場面もありました。そのお張り「UEDA獅子」の型に自由に絵付けをして楽しんで下さい。申し込み方法について後日、ウェブサイトにて詳細掲載します。